



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

緑内障手術療法の改良に関する臨床的および実験的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/298

はしがき

緑内障は従来考えられていたように眼圧の異常のみにより引き起こされる疾患ではなく、視神経およびその周囲組織における循環障害などの眼圧に無関係の要因が本症の発症と進行に深く関与していることが知られるようになってきている。しかしながら、眼圧以外の要因をコントロールして緑内障を治療に導く研究は緒についたばかりであり、眼圧下降を介する治療が本症に対する主たる治療手段として行われる状況は当分の間変わらないものと推定される。手術療法は緑内障に対する重要な治療手段であるが、現在一般的に行われている術式には、特有の合併症がある、眼圧下降が必ずしも治療を意味しない、などの根本的な問題点のあることが従来より指摘されていた。

こうした緑内障手術療法に関する状況に鑑み、本研究においては、現在の緑内障手術療法の緑内障治療における位置付けを再検討することとし、そのため、臨床成績を検討するとともに、マイトマイシンC投与方法の改善に関する動物実験を行うこととし、実施した。具体的には、マイトマイシンC併用緑内障手術を施行した症例の成績を、視機能、眼圧、濾過胞の形態、併発症の点から再検討し、最良の手術成績を得るために、手術成績と術前、術中の諸臨床因子との関連を多変量解析で検討した。また、緑内障手術後の角膜乱視の発生について検討を加えた。さらに、新たに開発されたゲル化基剤を用いた新規投与方法について動物実験で検討した。本研究の成果は以下に述べるが、こうした臨床的ならびに実験的検討により、緑内障手術療法の成績が明らかにされ、医師と患者が緑内障手術療法を選択する際の基本的な情報を得ることができたとともに、21世紀に向けた手術療法の改良についての糸口をつかむことができたと思っている。

最後に、本研究にご助力をいただいた研究分担者ならびに研究協力者に感謝の意を表しますとともに、研究費補助金をいただいたことに対し文部省ならびに関係各位に深謝致します。

研究組織

研究代表者 山本哲也 (岐阜大学医学部眼科学助教授)
研究分担者 谷口徹 (岐阜大学医学部眼科学助手)
研究分担者 川瀬和秀 (岐阜大学医学部附属病院眼科助手)
研究協力者 北澤克明、直原修一、望月清文、佐久間毅、安藤宏、小栗章弘、末森央美、一圓公治、一圓三恵子、萩原葉子、東松敦子、澤田明、近藤雄司、堀暢英、Lina Daugeliene

研究経費

平成7年度	1, 200千円
平成8年度	800千円
平成9年度	300千円
計	2, 300千円